一般質問

●3月議会で19人の議員が市政全般について質問しました。●

「特定健診制度について」個人負担金及び健診率アップについて「乳がんの早期発見、早期治療の取り組みについて」「生活バス路線事業について」

三田村議員

(1)福祉保健行政について

①特定健診個人負担金が大村市は1千円であり、他市と比較すると高いと考えるが500円程度にならないのか。

②特定健診率をアップするためにどのような取り組みをされるのか。

③乳がんの検診率を上げるために、県健康事業団の集団検診車の導入が、今年度実現できるか。また、偶数奇数の年齢に関係なく2年に1回検診が受けられる方法を取ってほしいが。

④乳がん検診率アップと乳がん予防の正しい普及をめざし市民への啓蒙活動として、今年度NPO法人ピンクリボンの協賛、乳がん撲滅運動健康フェスタを市主催で開催して頂きたい。具体案があればお願いしたい。

(2)生活バス路線事業について

20年度4月も減便路線があるが、廃止となった地域の強い声があれば他の交通手段を検討していただくことができるのか。

福祉保健部長　(1)①特定健診は保険者に義務付けられた健診であり、減額や無料となれば、市民全体の保険料にも影響する。国の基準では3割負担を進めており、市として厳しい選択であったが、個別健診について1千円の自己負担額を設定している。

②受診率向上の取り組みとしては、町内会等への説明会を行っている。また、健康福祉まつりを健診や保健指導をテーマに開催する予定である。また、未受診者に対しては、はがき等により勧奨等を行っていきたい。

③集団検診については、20年度のピンクリボン健康フェスタ等で試験的に、集団検診を行う予定で、その状況を見ながら、21年度以降の導入について検討していく予定である。また、現在国の指導が2年に1回となっており、まず受診しやすいように呼びかけを行っていきたい。

④さらに啓発を進めるために、8月に健康フェスタとして、ピンクリボンながさき等の関係機関と共同し、実行委員会を立ち上げ、講演会や体験コーナー等を設けて開催する計画である。

市長　(2)20年度は、バスに対するニーズ調査等により、現状把握や既存の路線見直しを行い、地域の実情に見合った公共交通体系について検討していきたい。

(その他の質問事項)

・生活保護について

・大村市指定ゴミ袋について

ゴミ袋の価格を上げない工夫を。

2月に行われた乳がんの予防講演会

新幹線新駅は予定地で本当に大村市の将来にとって最善なのか　道州制を視野にいれた合併は

田中秀和議員

(1)企画行政について

①新幹線の具体的な工事の計画、大村市の負担額、新幹線の駅の場所、在来線との関係について、どのようになるのか。新幹線駅に在来線の駅がないのは、新幹線のメリットが半減してしまう。大村市の50年後を考えた場合、新駅を現大村駅に持ってこられないのか。

②九州市長会では、今後10年をめどに、道州制実現を目指すとされているが、大村市としてはその準備をどう考えているのか。道州制では、基本自治体の規模を最低人口10万人、できれば30万人規模といわれているが、大村市にとって市町合併の必要性はないのか。

市長　(1)①本年度中には着工認可が得られる見込みである。新幹線駅の建設場所については、平成16年に県との共有で植松3丁目に用地を確保しており、ここに新幹線駅を建設していきたいと考えている。現大村駅や竹松駅との併設はこれまでの経緯から困難ではないかと考える。乗